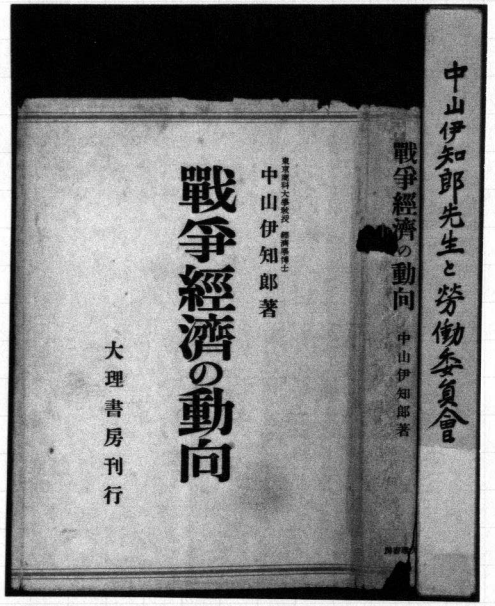
中山伊知郎（なかやまいちろう）　経済学者、経済学博士。明治二十一年九月二十日三重県生れ、昭和五十五年四月九日歿（一八八一―一九八〇）。大正十二年東京商科大学卒。ドイツに留学してシュンペーターに師事。昭和十二年母校教授、二十四年一橋大学学長。中央労働委員会会長、日本ILO協会会長等を務めた。四十三年文化功労者。『中山伊知郎全集』全十八巻別巻一（昭和四十七年―四十八年刊）がある。

譯書に、クールノー著『富の理論の數學的原理に關する研究』（昭和十一年六月二十日岩波書店「岩波文庫」）、シュムペーター著『經濟發展の理論』（東畑精一共譯、昭和十二年七月二十日岩波書店）、同『經濟學史』（東畑精一共譯、昭和二十五年十二月十五日岩波書店）、同『十大經濟學者（マルクスからケインズまで）』（共譯、昭和二十七年五月二十日日本評論新社）等。著書『純粋經濟學』（昭和八年十二月十日、增補版・二十九年六月十日岩波書店「岩波全書」）、『アダム・スミス　國富論』（昭和十一年一月四日岩波書店「大思想文庫」、復刊『スミス　國富論』二十二年九月七日岩波書店）、『均衡理論と資本理論』（昭和十二年九月二十日岩波書店）、『發展過程の均衡分析』（昭和十四年四月二十日岩波書店）、『國防經濟總論』（赤松要・大熊信行共著、昭和十七年十月二十五日巖松堂書店「國防經濟學大系」）、『國家資力の問題』（共著・山口茂編、昭和十九年一月二十日大阪・甲文堂書店）、『戰爭經濟の動向』（昭和十九年二月十一日大理書房）、『經濟學の將來』（共著・東京經濟研究所編、昭和二十一年十一月十五日廣文社）、『新日本建設原理』（共著・大倉山文化科學研究所編、昭和二十二年八

月十五日明世堂書店）、『回想の三木清』（合著・谷川徹三編、昭和二十三年一月十五日文化書院）、『現代日本への考察』（合著・永田清編、昭和二十六年十一月十五日慶友社）、『わが師』（合著、昭和二十二年六月三十日東京出版株式会社）、『北海道開発論―国民経済的観点よりみた分析』（編、昭和二十五年六月十日東洋経済新報社）等。文獻に『中山伊知郎先生と労働委員會』（昭和五十六年二月二十日中央労働委員会編刊、労委協会）、『一路八十年―中山伊知郎先生追想記念文集』（昭和五十六年四月九日中山知子編）等。